

三訂版

中級から
学ぶ
日本語

テーマ別

松田浩志
亀田美保

KENKYUSHA

まえがき

『テーマ別 中級から学ぶ日本語』は、初版以来、20年を超す長きにわたり、先生方、学習者の皆さんと多くの方からご支持をいただいております。この間、一度改訂をいたしました。このたび、時代の変化、学習者層、学習ニーズ、さらには学び方の変化等を考慮して、大幅に改訂することといたしました。改訂作業を進めるにあたり、これまで使っていただいた皆様からのご意見、ご提案が大きな助けになった点を、心から感謝申し上げます。

さて、この教科書を手にする学習者は、日本語学習の入門、初級の段階を終えて、日本語を学びたいという何らかの動機を既に持っている人たちだと考えられます。このたびの改訂では、その人たちが日本語学習にさらに積極的に関わり、それを継続するための力となるのは「興味」であるという、著者従来の考えをより鮮明にした構成といたしました。具体的には、上に述べた学習状況の様々な変化に対応すべく、本文の長さ、新規学習項目数の制限、漢字の提示方法などを工夫し、より効率よく、かつ効果のある語学学習につながるような構成を目指しました。その点は、次頁以降の「『テーマ別 中級から学ぶ日本語』を使っていただく先生方へ」の項をご参照ください。

現在、日本語教育の環境は、これまでとはいろいろと異なる様相を呈しております。そうした状況に適應すべく改訂したこの教科書が、これまで同様、指導現場で活用され、少しでも日本語教育に資することができればと願っております。さらには、日本語教育が一過性のものでなく、国内外でしっかり根付いた外国語教育の分野として確立することにつながれば、著者望外の喜びです。

2014年10月

著者

『テーマ別 中級から学ぶ日本語』を使っていただく先生方へ

1. 『テーマ別 中級から学ぶ日本語』の概要

1) 対象とする学習者像

『テーマ別 中級から学ぶ日本語』（以下『中級』）は、初級の学習をひと通り終えた学習者を対象として想定しています。日本語の基本的な文の構造や文を組み立てる規則（文法）を理解し、日常的に使用される基本的な語彙や表現を使って、伝えたいことを文にして伝えられる学習者です。より具体的には、日常生活の一般的な場面で必要なやり取りができ、自分自身のことや身近な場所で起こった出来事について説明したり、意見や感想を文にできる段階の学習者です。

2) 『中級』が目指す到達目標

『中級』では、主に以下の2点を到達目標とします。

- ① 日常身近に体験する出来事や社会的な話題について、自分の感想や考えが理由とともに説明できること
- ② 異なる視点や考え方を持つ相手とも、興味・関心を持って情報や意見の交換ができること

そして、これらの到達目標を達成するために、学習の過程で次のような技能を伸ばしたいと考えています。

- a) より複雑な文の構造を理解し、適切な接続により、まとまった内容の文でやり取りできること
- b) 文章の構造を理解し、まとまった内容の文章を読み書きできること
- c) 理解できる漢字および語彙を増やすとともに、適切に使用できる漢字や語彙・表現の範囲を広げること
- d) 発話意図、スピーチレベル（書き言葉・話し言葉）、場面などに合わせて、適切に表現を使い分けられること

さらに、「読む」「書く」「聞く」「話す」という4技能を偏りなく伸ばすために、『ワークブック』（以下、『ワーク』）を含めて、1課分の構成が考えられています。なお、『教え方の手引き』（以下、『手引き』）には、『中級』と『ワーク』を使った授業の組み立て例があります。

2. 『中級』作成にあたっての方針

上で述べたように、『中級』は、それに準拠する『ワーク』との併用で、日本語の4技能の運用力を伸ばすことを目指しています。各課はそれぞれ11のセクション(『中級』8セクション、『ワーク』3セクション)から構成されています。

1) テーマの設定

「語学学習の動機づけの大きな要素のひとつが学習者の興味である」という著者の考えに基づいて、各課に学習者が興味を持つと考えられるテーマが設定されています。テーマ選択の基準は、学習者同士が、また、教員と学習者が共有できる問題を選ぶこととしました。たとえば、言葉の役割、日常身近に体験、見聞きする社会問題や、異常気象などの地球規模の問題、学習者にぜひ共有してほしいと考える貧困、少子高齢化などのテーマが取り上げられています。

2) 既習項目と新規学習項目の明確化

新規学習項目は、すべて各課〈読みましょう〉の本文で提出し、その他のセクションでは語彙・表現、文法項目など一切の新規学習項目は出てこないよう構成されています。教える側が学習者の既習項目を把握することによって、教室で学習者が初めて耳にする表現が新規学習項目となることを目指しています。本文で新規に学習した項目は、他のセクションでできるだけ反復練習、応用できるように、後の課に出てくる例文、練習などを工夫して、全体の構成が考えられています。

3) 新規学習項目数の制限

各課に新規に導入される漢字数は、30文字程度とし、さらに、非漢字圏の学習者に配慮して、読み書きを練習する漢字と、読みだけを練習する漢字に分けました。『中級』各課の最後の〈漢字を練習しましょう〉に整理して提示し、学習者の便宜を図りました。

本文は、以下に詳しく述べるように、使用文字数を900以下にし、長さが制限されています。使われている新出語彙・表現の数も最大50と設定し、課が進むにしたがって、本文の文字数、新規語彙・表現の数ともに少しずつ増やす工夫がなされています。また、原則として、できるだけ応用範囲の広い語彙・表現を取り上げ、使用頻度の低い語彙・表現は極力本文に取り入れないよう構成されています。

4) 「会話」の扱い

『中級』、『ワーク』ともに、「会話」というセクションが設けられていません。それは、『中級』、『ワーク』での練習過程で、教師と学習者の間でのやり取りが、真の会話力の養成になるとの著者の考えからです。ただし、会話独特の表現を学ぶことは必要である

と考え、それは『ワーク』の「聴解I」で扱うこととしました。

3. 『中級』各セクションのねらい

『中級』の8つのセクションは、それぞれ以下のようなねらいを持って構成されています。『ワーク』の3つのセクションについては、『手引き』を参照してください。

新しい言葉

〈読みましょう〉に出てくる順に、新出語彙・表現を提示してあります。原則として、表現の成り立ちにこだわることなく、本文で使われている形、たとえば、「～に対して」は「対する」と表示せず「～に対して」と表示されています。また、学習者の参考になるように、名詞は、スル動詞として使われる単語には「観察スル」と表示し、形容詞等には「静かナ・ニ」と活用情報も加えるなど、学習者にとって役に立つと考えられる情報を加えています。

さらに、単語としては既習項目であっても、表現としては新規学習項目と考えられる表現(「手を貸す」など)は、ここに載せています。今回の改訂では、いわゆる慣用表現(「耳を傾ける」など)を、できるだけよく使われる文脈で紹介することを試みました。

〈新しい言葉〉に新規学習項目として提示する新出語彙・表現の数は、20～50項目に収まる構成になっています。具体的には、1～10課までで300、11～20課までで470程度で、合計約770の新出語彙・表現を取り上げています。新出語彙・表現の多さが学習の障害にならないようにしたこと、極力、より応用範囲の広い語彙・表現に絞ったことで、この数になりました。教室で、テーマに関連してぜひ必要と考えられる語彙・表現を補足していただければと思います。『手引き』には、新出語彙・表現を導入する際の留意点が例をあげて述べられています。

ここで新しい語彙・表現として載せる際に、初級段階で既習と考えられる語彙・表現は省かれています。また、食べ物の名前、動植物の名前、「コンピュータ」、「ビデオ」、「コンビニ」、「スーパー」など、日常生活で既知と考えられる語彙も既習扱いとしました。中には、〈新しい言葉〉で取り上げられていないもので学習者が未習の語彙があるかもしれません。極めて少数だろうと考えられますが、教室で補足していただければと思います。

ここで取り上げた語彙・表現には、既習、未習にかかわらず、すべての漢字にルビが振られています。



いっしょに考えましょう

各課に設けられたテーマは広範な問題を含むテーマですが、このセクションでは、そのテーマのどこに焦点を合わせて学習を進めるかということを示し、さらに焦点へ誘うような設問を準備して、次の〈読みましょう〉につながるようにしました。学習者が新しいテーマの学習を始めるにあたり、そのテーマについて、その時点でどのような知識や考え、また、体験を持っているかを、教員側、学習者側双方が確認する形で扱えるような設問が並べられています。

『手引き』には、テーマの焦点、設問の意図が添えられています。



読みましょう

〈読みましょう〉には、①テーマの紹介、②新規学習項目の提示、③読解力の補強という3つの目的を持たせました。上で述べたように、新規学習項目はこのセクション以外には出てきません。また、各課の本文は、1～9課までは原則として3段落、それ以降は4段落の構成としました。本文全体の長さは、500～900文字に収め、課が進むにつれて字数が増える構成になっているのは、上で述べたとおりです。本文中のルビは、新出漢字のすべてに振ることを原則としました。

各課の〈読みましょう〉の音声は、研究社 HP (<http://www.kenkyusha.co.jp/>) より、無料でダウンロードすることができます。また、『手引き』には、教室でお使いいただけるよう、〈読みましょう〉の音声を収録したCDを付属しました。(ただし、第16課「歌の力」のうち、童謡「うみ」の部分は、著作権上の理由から、ダウンロード音声には含まれていません。ご了承ください。)



答えましょう

本文の理解度を確かめるために、A、Bの2つのグループに分け、Aでは8～9個の設問を準備しました。基本的に、各段落に関する質問が2、3問ずつ用意されています。その後、Bで、本文に必ずしも明示はされていませんが、読解力をつけるのに必要と思われる「行間を読む」類の質問のほか、学習者自身の経験や知識、考えなどを問う質問を設け、テーマの趣旨を問えるよう構成しました。『手引き』には、〈答えましょう〉の教室での使用例があります。



使いましょう

本文で提示した新しい文法項目の練習です。初級段階と異なり、取り上げた練習項目

の中には、多様な機能を持つ表現がありますが、基本的に使用頻度の高い用法・機能を持った表現、既習項目であるが活用できていない項目を取り上げ、練習できるようにしました。

各項目の例文の中に、()を付して添えられた部分がありますが、その項目を理解するのに学習者の助けになるのではと考えられる部分です。たとえば、「せっかく」という言葉は、「意図が成就しなくて／しないと残念だ」という気持ちを込めて使われることを理解してもらうため、「せっかくの旅行だから、(我慢しないで、)ちょっといいホテルにとまりたい」と「せっかく」が「ない」と呼応して使われることを意識してもらうよう添えられています。たとえ学習者が()の部分を書いたり、口にしたとしても、おかしい文にならないよう考慮されています。先生方に活用していただければと思います。

〈使いましょう〉の練習問題には、既習語彙・表現、文法項目を使って、複数の答えが考えられるように問題が準備されています。教室で使われる際に、学習者が文を作ることを楽しみながら練習できることを考えた構成です。

『手引き』には、上で述べられた()部分の意図の詳細、〈使いましょう〉の各項目をどこまで、どのように教えれば良いと考えられるかという点が、練習の解答例とともに詳しく取り上げられています。



まとめましょう

〈いっしょに考えましょう〉と〈答えましょう〉での下準備を基にして、本文で提示されたテーマを再度確認し、それをまとめるためのセクションです。初めは、まとめにつながる質問に答える形で進め、最終的には、口頭で要領よく本文をまとめられるように進めるとよいと思われます。その後、全体のまとめを作文として課し、口頭でのまとめと作文でのまとめの違いを意識させ、いわゆる話し言葉、書き言葉を意識する練習としても活用できるセクションです。



話しましょう

学習者同士が、主に口頭でテーマについての意見交換をすることが目的のセクションです。上の「到達目標」で述べた「異なる視点や考え方を持つ相手とも、興味・関心を持って情報や意見の交換ができる」力を養うセクションです。テーマに関する情報を交換して話すことによって、テーマについての考えを深めると同時に、会話の力を伸ばすことも目的としています。



漢字を練習しましょう

このセクションには、〈読みましょう〉で使われる漢字のうち、未習と考えられるものを2つのグループに分けて提示しています。読み・書きの双方を習得する漢字Aと、読みを練習する漢字Bのグループです。後者に関しては、後の課で再度Aグループで取り上げる漢字もあります。

Aで取り上げる漢字は、1～9課が10、10～20課が12の合計222文字、Bで取り上げた漢字は、課によって9～18とばらつきがありますが、合計約270文字です。

Bグループに取り上げた漢字の中で、画数の多い漢字がありますが、「携帯」を「けい帯」「けいたい」と実際に学習者が目にする機会の少ない表記で出すよりも、よく目にする形を紹介するほうが、学習者には意味があると考えての扱いです。

新出漢字を選ぶ際に、初級段階で学んでいると考えられる漢字を既習扱いとした点は、〈新しい言葉〉と同様です。

目 次

まえがき iii

『テーマ別 中級から学ぶ日本語』を使っていたく先生方へ iv

第 1 課	まなぶ	〈なぞなぞ〉	1
第 2 課	みつける	〈花の名前〉	7
第 3 課	たべる	〈ごちそう〉	13
第 4 課	たとえる	〈猫に小判〉	19
第 5 課	あきれる	〈満員電車〉	25
第 6 課	つたえる	〈思いやり〉	31
第 7 課	かざる	〈名刺〉	38
第 8 課	おもいこむ	〈男の色・女の色〉	44
第 9 課	まもる	〈見えない相手〉	51
第 10 課	なれる	〈腕時計〉	57
第 11 課	つながる	〈タテとヨコ〉	63
第 12 課	わける	〈ABOAB〉	69
第 13 課	おもいだす	〈昼のにおい〉	75
第 14 課	みなおす	〈てるてるぼうず〉	81
第 15 課	ふれあう	〈旅行かばん〉	87
第 16 課	うたう	〈歌の力〉	93
第 17 課	なおす	〈命〉	101
第 18 課	はなれる	〈ふるさと〉	107
第 19 課	かなえる	〈ふたつの夢〉	113
第 20 課	おぼえる	〈ものづくり〉	119

〈使いましょう〉練習項目一覧 125

索引 133

第1課

まなぶ



新しい言葉

はじ
始める

くち ^だ
口を出す

なぞなぞ

そこで

ひろ
広げる

しんばい
心配スル

いけない

て ^と
手を止める

あいて
相手

たの
楽しみナ・ニ

それでも

ある(日)

ばめん
場面

ぶんか
文化

おや
親

～(だ)って

くちぐち
口々に

まな
学ぶ



いっしょに考えましょう

- ① 日本語のほかに、外国語が話せますか。
- ② 外国語の勉強が好きですか。
- ③ 日本語の勉強で、今こまっていることがありますか。



読みましょう

なぞなぞ

子供が小学校で英語の勉強を始めた。私は、英語が話せるようになってくれるといいなと思ったり、難しく、きらいになったらこまるなど心配したりしていた。それでも、親が口を出して、子供にいやがられてはいけないと思って、「今日は何を勉強したの」とたずねられないでいた。

- 5 ある日、「お母さん、外国の子供は、夜寝る前に顔を洗うんだって。どうしてかわかる」と子供が聞いてきた。初めは、何を言っているのかよくわからなくて、いつものなぞなぞかなと思いながら、料理の手を止めた。すると、英語の時間に、お父さんが子供たちに「寝る前に顔を洗いなさい」と言う場面が出てきたと、思いもしない話が始まった。生徒のひとりが「先生、夜、
10 歯はみがくけど、顔も洗うの」と言うと、みんなが口々に、「ぼくは」「私は」と言い始めたのだと言う。

- そこで、先生が「みんなは、夜お風呂に入って顔を洗うけれど、世界にはね…」と話をされたのだそうだ。先生は、小学生相手に、「文化がちがうから」と難しい説明はできないので、そうおっしゃったのだろう。この話を聞いて、
15 私は、「子供たちは大切なことを学んでいるのだ。今までよりも広く世界を見たり、ものの見方を広げたりしているのだ」と思った。そして、次はどんな話をしてくれるのか楽しみにするようになった。

答えましょう

A 「なぞなぞ」の文を読んで、質問に答えましょう。

1. 筆者(=この文を書いた人)はどんな人ですか。
2. 子供が英語を勉強することをどう思っていましたか。
3. どうして子供に英語の勉強のことをたずねないのですか。
4. 筆者は、何をなぞなぞかなと思いましたか。
5. 子供はどんな話をしましたか。
6. 生徒のひとりがどんなことを言いましたか。
7. 子供たちが口々にいろいろなことを言い始めたとき、先生はどうしましたか。
8. 子供の話を聞いて、筆者はどう思いましたか。
9. 筆者が次の話を楽しみにするようになったのは、どうしてだと思いますか。

B 友だちと次のことを話してみよう。

1. 「寝る前に顔を洗いなさい」という場面で、子供たちが質問したのはどうしてですか。
2. 先生の話にある「世界にはね…」はどんな説明だったと思いますか。

使いましょう

A-1 「～ようになる／～なくなる」という言い方を練習しましょう。

例

1. (今までのれませんでした)が、友だちに教えてもらって、自転車にのれるようになりました。
2. 新しいしんかんせんができると、東京まで1時間ぐらいで行けるようになります。
3. 最近小さい字が読めなくなってきました。

練習

1. 毎日練習して、_____ようになりました。
2. もう少し体重をおとすと、_____ようになります。
3. 最近_____が_____なくなってきました。
4. _____なったらいいなと思います。

5. _____ なくなったらこまるので、_____。

A-2 「～ようになる／～なくなる」という言い方を練習しましょう。

例

1. (仕事をしているときは少しもしませんでした)が、父は仕事をやめてから、運動する**ようになりました**。
2. 最近夜おそく食事をする**ようになって**、体重がふえました。
3. 前はよく自分で料理を作っていました**が**、最近**はしなくなりました**。

練習

1. _____ は _____ から、_____ になりました。
2. 最近 _____ になって、_____。
3. 前はよく _____ が、最近**は** _____ になりました。
4. 日本に来てから、_____ になりました。
5. 最近いそがしくて、_____ になってしまいました。

B 「～がる」という言い方を練習しましょう。

例

1. ランさんがご両親のことを話すのを聞いて、ご両親に会いた**が**っているんだなと思いました。
2. 山田さんは大好きな野球チームが試合にまけて、ざんねん**が**っていました。
3. 子供がコンピュータゲームをほし**が**っていたので、たんじょう日に買ってやりました。

練習

1. _____ が _____ を聞いて、_____ がっているんだなと思いました。
2. _____ は _____ て、ざんねん**が**っていました。
3. _____ が _____ をほし**が**っていたので、_____。
4. 友だちは _____ をいや**が**って、_____。
5. 友だちが _____ **が**っているようなので、私は _____。

C 「～ては／といけない」という言い方を練習しましょう。

例

1. かぜを引いては／引くといけないから、あたたかい服を着たほうがいい。
2. 子供がさびしがっては／さびしがるといけないと思って、おもちゃであそばせておきました。
3. 子供にいろいろ言いすぎでは／言いすぎるといけないと思うが、すぐ口を出してしまう。

練習

1. _____ てはいけないから、_____ ほうがいい。
2. _____ てはいけないと思って、_____ ておきました。
3. _____ てはいけないと思うが、すぐ _____ てしまう。
4. _____ といけないので、_____ うと思います。
5. _____ といけないと思って、いつも _____ 。

D 「～ないで／ずにいる」という言い方を練習しましょう。

例

1. (いくら時間がほしくても、寝なければならないから、) 人は何日も寝ないで／寝ずにいることはできません。
2. (家族との関係は大切にしなければいけないけれども、) いそがしくて、家族とゆっくり話す時間も持たないで／持たずにいます。
3. 兄は電気代を安くするために、(体のためには夜よく休まなければならないけれども、) 夏でも寝るときにエアコンをつけないで／つけずにいるそうです。

練習

1. 人は _____ ないでいることはできません。
2. いそがしくて、_____ 時間も持たずにいます。
3. 友だちのお姉さんは _____ ために、_____ ずにいるそうです。
4. _____ ずにいると、後で _____ 。
5. 何日も _____ ないでいたので、_____ 。



まとめましょう

次の質問に答えて、「なぜなぞ」の文をまとめてください。

1. 英語の時間にどんなことがありましたか。
2. 先生は子供たちにどんなことを教えようと思いましたか。
3. 筆者は英語を学ぶことをどう思うようになりましたか。



話しましょう

次のことを話し合ったり、作文に書いたりしましょう。

1. 「外国語の勉強」
 - 日本語の勉強はどうですか。
 - 日本語を勉強して良かったと思ったことがありますか。
 - それはどんなことですか。
 - 外国語を勉強すると、どんなことができるようになるのでしょうか。
2. 「ものの見方」
 - 日本に来て、自分の育った所とちがうと思ったのはどんなことですか。
 - そのとき、どこがどのようにちがうと思いましたか。
 - どうして日本ではそうなのでしょうか。



漢字を練習しましょう

A 青い漢字の読み方と書き方を練習しましょう。

子供[こども]	始める[はじめる]	私[わたし]
心配[しんぱい]	親[おや]	洗う[あらう]
初め[はじめ]	生徒[せいと]	相手[あいて]
文化[ぶんか]		

B 青い漢字の読み方をおぼえましょう。

難しい[むずかしい]	今日[きょう]	お母さん[おかあさん]
寝る[ねる]	お父さん[おとうさん]	場面[ば・めん]
歯[は]	学ぶ[まなぶ]	